

ガー科 (アリゲーターガー、 ロングノーズガーなど)

目科名：ガー目ガー科
学名：Lepisosteidae Gen. spp.
原産地域：北アメリカ

【どんな被害を引き起こすのか】

生態系：在来魚の駆逐

- ・在来魚類を食べるおそれ

産 業：漁業への被害

- ・水産資源を食べるおそれ

日本各地で目撃や捕獲の情報はあるものの、現時点で自然繁殖を裏付ける情報なし
ただし、繁殖の可能性が指摘されている場所もあるため、注意が必要

<ガー科には、以下の7種がいる(いずれも特定外来生物)>

- ・アリゲーターガー
- ・キューバンガー
- ・トロピカルガー
- ・スポットドガー
- ・ロングノーズガー
- ・ショートノーズガー
- ・フロリダガー

<最大全長>

- ・アリゲーターガー 3m
- ・ロングノーズガー 2m
- ・スポットドガー 1m

体は細長く頑強

(写真はアリゲーターガー)



【生息場所・食べ物】

- ・河川の淀みや緩流域を好み、特に水草の多い場所に生息することが多い
- ・うきぶくろで空気呼吸ができるため、溶存酸素の少ない環境にも耐える
- ・魚食性が強い
- ・全長2mの大型個体が、小型のガー類を食べることができ、水鳥も食べる
- ・大型化すれば天敵はほぼ存在しないと推測される



実際に生息が確認された名古屋市内の河川

- ・鋭い歯が並ぶ
- ・顔はワニに似る



【どこまで広がっているか】

長野県では

- ・2000年に野尻湖でアリゲーターガーが捕獲された
- ・2019年12月現在、分布情報なし

全国では

- ・アリゲーターガーは茨城から鹿児島までの15水系以上で生息が確認



2019年現在 赤色 未定着

全長 138.7cm、
体重 19.3kg の
アリゲーターガー
捕獲時の様子

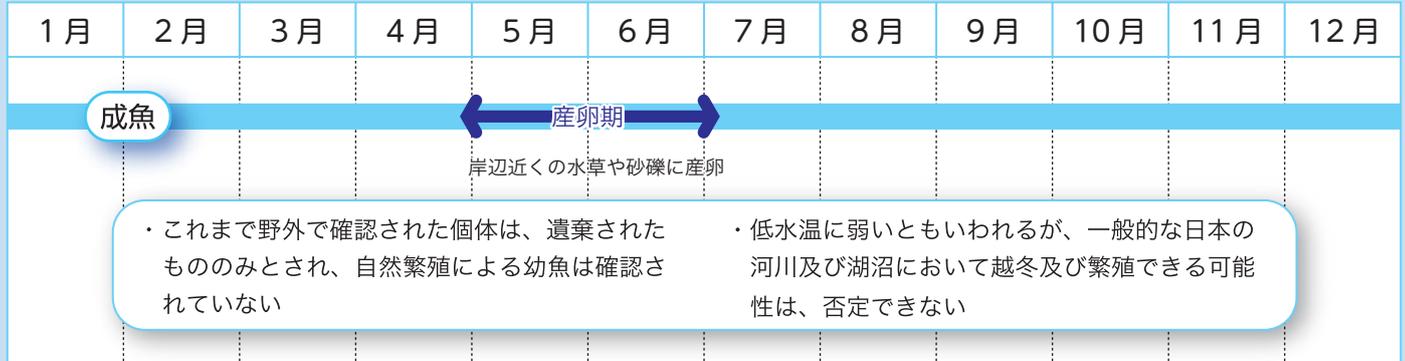


【発見したときは】

- 疑わしい魚類を発見したら、可能な範囲で写真を撮影（体長も分かると良い）
- 他に同じような魚類が周りにいないか確認
- お住まいの市町村または県地域振興局環境課に連絡する

【生活史】

※生活史は、長野県以外の地域の事例のため、時期がずれる可能性あり



【防除方法】

通報 早期発見が最も重要！

- 疑わしい魚類がいたら、市町村または県に連絡をする

餌ジャグラインで捕獲 根絶を目指す

- ◎ 県知事の特別採捕許可が必要になります
- ◎ まずは県地域振興局農業農村振興課と県水産試験場に相談を！
- アメリカ合衆国で使用されているジャグライン（右図）と呼ばれる仕掛けが有効
- ジャグラインとは、棒状のフロートに釣りの仕掛けを直付し、それをポイントに流していく方法（置き針、流し針）
- 基本的には岸边等に固定せず、フロートを水面に流したままにして、設置や見回り、回収はボートを使って行う
- 餌には小型のアジ等を使用する
- ジャグラインが流される流水域においては、流されにくい仕掛けを考案する必要あり
- ※ 採餌量が増える冬季明けは、ジャグラインにかかりやすくなると言われる

刺網で捕獲 根絶を目指す

- ◎ 県知事の特別採捕許可が必要になります
- ◎ まずは県地域振興局農政課と県水産試験場に相談を！
- 体長 1m を超えるアリゲーターガーの場合、原産地で使用されている目合いの物を用意した方が良い

- ・ ガーが刺網の前で動きを止め、網を認識して避けているような行動が観察された
- ・ 本事例では、ジャグラインに掛かったガーを大型の刺網で囲い、刺網に絡める方法をとった

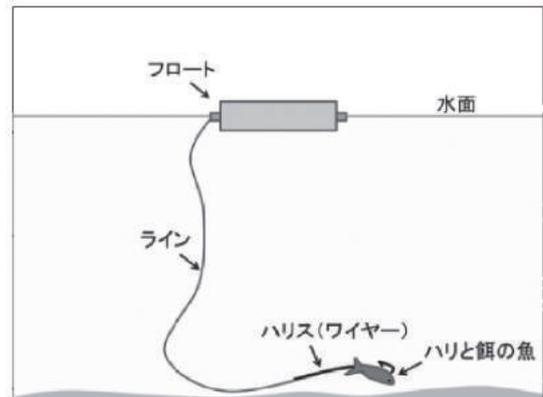
【防除実施事例】

名古屋城外堀での捕獲事例

（なごや生物多様性センターと日本カメ自然誌研究会）

2017年5月に、全長 138.7cm、体重 19.3kg のオスの捕獲に成功

- ・ 捕獲には 20 基のジャグラインを設置
- ・ 設置から捕獲までは 3 日間かかった
- ・ 2 時間おきにボートで見回り、餌の付け替えを行った（ミシシippiaアカミミガメをはじめとしたカメ類に、たびたび餌を取られた）



ジャグラインの構造（野呂ら(2018)*より引用）

事例はジャグラインによる捕獲の成功であるが、場所や状況によって、より効果的な方法を検討していく必要あり

* 野呂達哉・鶴飼普・宇地原永吉・岡田健士朗・酒井正二郎（2018）名古屋城外堀におけるアリゲーターガー *Atractosteus spatula* (Lacepede, 1803) の捕獲。なごやの生物多様性 5：65-73